

7

石巻市
(一社)ウィーアー
ワン北上

住民等との協働による荒廃地の緑化推進

ポイント



- ① これまでの活動のまとめや、これを活用したグリーンインフラ大賞への応募・受賞を通じ、より広範に情報発信が可能となった
- ② 自走化に向けて収益事業の柱のノウハウ習得と育苗事業も含めた事業スキームの構築ができた

<今年度（令和4年度）の取組成果>

- 広報ツールを作成し、平地の杜づくりに共感する仲間づくり（きたかみ園藝部）とサポート企業を獲得。
- 杜づくりと収益事業の関連の整理を行い、取組の体系化や事業スキームを構築。

<今後の方向性>

- 広報ツールを活用し、継続的な活動のためにきたかみ園藝部・サポート企業等の仲間づくりの継続。
- 育苗やエコテリアなどの収益事業の実践及び営業展開を充実し、活動の自走化を図る。
- 他地域での横展開の実施

所在地：宮城県石巻市

主な用途：緑化推進（平地の杜）、育苗事業

■ 位置図



1. 目的と背景

活動の自立・継続に向けた事業のスキームを構築し、100年・1000年続く杜の創出及び他地域への横展開を検討

- ・ 石巻市北上町では、移転元地の宅地は荒廃し、空き地として残っており、外来種植物の繁茂など景観の悪化、生態系への影響が懸念される。
- ・ 里山のような海岸低平地の本来の景観を取戻すため「平地の杜づくり」、関係人口づくりにも取り組む。
- ・ 令和3年度にハンズオン支援により、平地の杜づくりのノウハウの習得と中長期の目標設定を行った。
- ・ 今年度は、平地の杜づくりの実働部隊としてのきたかみ園藝部の募集と、収益プログラムの確立を目指す。



十三浜長塩谷地区

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

2. 想定された課題

昨年から継続して平地の杜づくりに取り組んでいたが、以下の課題あり。

- ・ 平地の杜づくりの活動の実働部隊となるきたかみ園藝部やサポーターなどの仲間づくりを目指し、**プログラム及び広報の充実を図る必要がある**
- ・ 育苗事業やエコテリア事業などの収益事業の具体化を図り、販路の拡大など、**ノウハウ・実績を獲得し、収益事業の確立を図る必要がある**

3. 今年度の取組項目

平地の杜づくりの活動自走化を目指し、以下の取組を実施。

I 平地の杜づくりの実践

- ・ 昨年度から引き続き十三浜長塩谷地区の「平地の杜づくり」を進める

II きたかみ園藝部の活動内容の充実

- ・ 平地の杜づくりを継続的に実行していく組織としてきたかみ園藝部を組織し、様々な活動プログラムを立案

III 情報発信・連携の強化

- ・ きたかみ園藝部、サポート企業を集めるため、様々な情報発信を実施

IV 収益事業の確立

- ・ 育苗事業やエコテリア事業など、活動の自走化に向けた収益事業のスキームを構築

4. 取組経過や主な調整プロセス

6～10月 現地施工ワークショップを実施するとともに、きたかみ園藝部のプログラムを検討し、仲間集めのための**情報を発信**

- ▶ 6月に小規模現地施工ワークショップ、10月に延べ100人を集めた施工ワークショップを開催し、平地の杜づくりを実践。
- ▶ きたかみ園藝部の活動プログラムを検討し、メンバー間の交流のための企画を実施するとともに、SNSや仲間集めのために書店でのポップアップブースを交渉・設置するなど、情報を発信。



現地施工 WS の開催

10～12月 収益事業として、**エコテリア試験施工の実践**、育苗事業の立ち上げに向けた**情報収集・意見交換**などを実施。**グリーンインフラ（GI）大賞審査や広報用に活動紹介動画を作成**

- ▶ 収益事業として見込んでいる、エコテリア事業のノウハウ習得及び実績づくりのため、試験施工を実施。
- ▶ 育苗事業の実践に向けて情報収集と連携が想定される民間団体との意見交換を実施。
- ▶ 活動紹介動画を作成し、グリーンインフラ大賞審査に向け活用するとともに、広報ツールとしても活用。



ポイント①

これまでの活動のまとめや、これを活用した**グリーンインフラ大賞への応募・受賞**を通じ、より広範に**情報発信**が可能となった

12～2月 来年度以降の活動を具体化するために**事業スキームの構築及び各プログラムの具体化**を実施。**平地の杜づくりの広報ツールとしてガイドブックやチラシを作成**

- ▶ 育苗・エコテリア・震災伝承プログラムなどの収益事業を来年度以降実践するための事業スキームを検討・構築。
- ▶ 平地の杜づくりの仲間を集めるとともに、他地区への展開を目指し広報ツールとしてガイドブックや各プログラムのチラシを作成。



ポイント②

自走化に向けて**収益事業の柱のノウハウ習得**と育苗事業も含めた**事業スキームの構築**ができた

■ 「現地施工ワークショップ」の開催と今後の実施体制

ウィーアーワン北上が主体となり、石巻市北上総合支所や復興推進課、地域住民と連携し実施

平地の杜づくりを実践している一般社団法人ウィーアーワンが主体となり、関係各部署や地域住民と連携を行う。

実施主体：

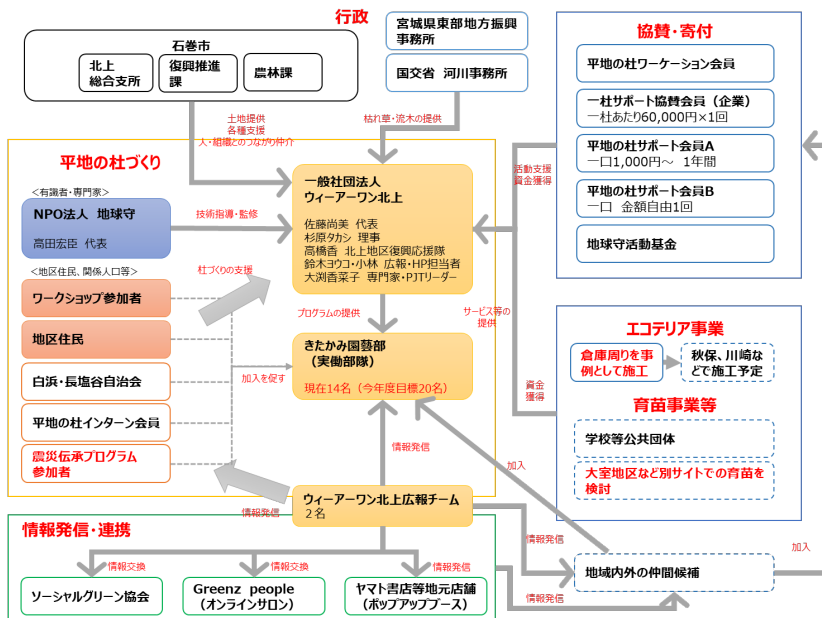
- ・ 一般社団法人ウィーアーワン北上

連携部署：

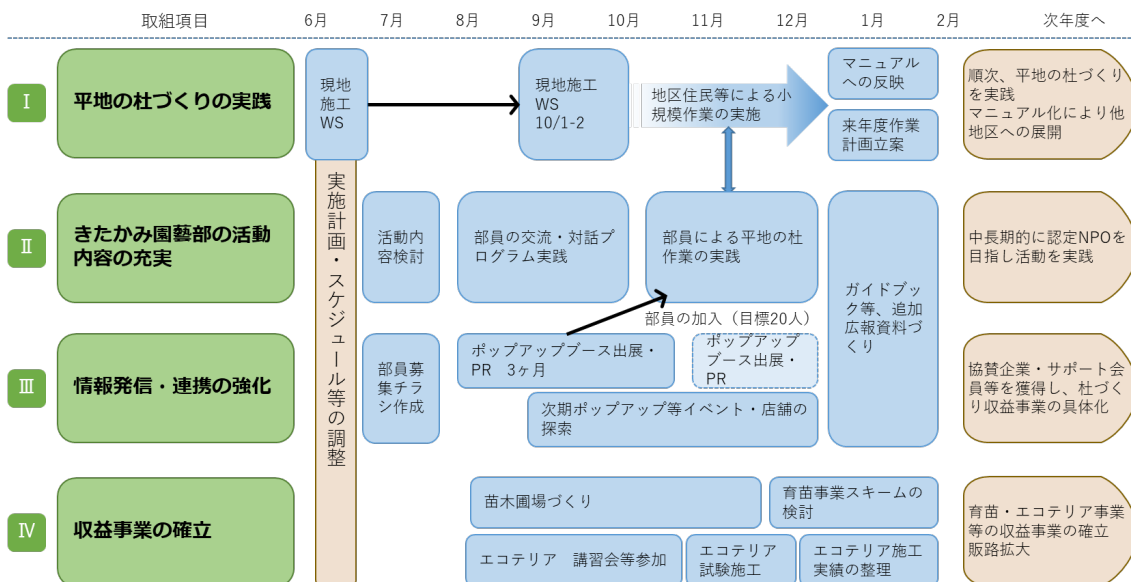
- ・ 石巻市北上総合支所（協力）
- ・ 石巻市復興企画部復興推進課（協力）
- ・ 宮城県東部地方振興事務所林業振興部（協力）
- ・ 国土交通省北上川下流河川事務所 飯野川出張所

民間主体：

- ・ NPO 法人地球守代表 高田宏臣氏（技術指導・監修）
- ・ 白浜・長塩谷地区住民7世帯（協働・協力）



■ 取組工程



■ 取組成果や重要な検討資料等

YouTube グリーンインフラ 北上

地域資源を最大限に活用
持続・自立を目指す

植樹する苗木…近隣の山林で山採りした自生種の実生苗や種、どんぐりから自分たちで育苗しています

[有機物] 落ち葉、竹、稲わら、剪定枝

[官民連携] 刈草、流木の活用

・国土交通省東北地方整備局
北上川下流河川事務所
・株式会社源崎組(石巻市)
との試験的な取り組み

再生 (0)

6月に廃棄されていた北上川下流の河川敷から、地元産の苗木を採取し、育てています。

I-1 石巻市北上町「平地の杜づくり」～被災した集落跡地を心地よい場所へ～【応募者】（一社）ウィアーワン北上、宮城県石巻市

グリーンインフラ官民連携推進... チャンネル登録者 364人

石巻市 北上町

プロジェクトを応援して

SDGsに貢献
平地の杜づくり
プロジェクト

私たちの活動を応援くださる協賛企業サポーターを募集しております

ウィアーワン北上

2021年 6月 住民とともにプロジェクトがスタート
2022年 11月 第4回復興デザイン賞「復興は未来」授賞
2023年 2月 第3回グリーンインフラ大賞「国土交通大臣賞」授賞

石巻市 防災事業

図1 作成した各種広報ツール（案）

活動の体系	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	今年度ゴール	中長期ゴール
平地の杜づくり	6/11-12 現地施工WS			10月1-2 現地施工WS	地区住民等による小規模作業			今年度作業のマニュアルへの反映 来年度作業の計画			平地の杜づくりの実践 マニュアル化	平地の杜づくりのマニュアル化 他地域への展開
きたかみ園藝部の活動	きたかみ園藝部の活動 予定作成		きたかみ園藝部の 顔合わせ		10/16 現場作業			子育て団体等への発展を検討 広報活動			20名の仲間を集める (現在21名達成)	認定NPOとし、参加者の 受け皿
情報発信・連携			ポップアップブース設置		次期ポップアップ等イベント・店舗の 探索			一坪の杜でまちづくり 市民活動ガイドブックづくり			サポート団体・企業 (3-5社) 登録 (現在7社達成)	きたかみ園藝部の拡大 協賛企業・サポート会員の 獲得
エコテリア事業					エコテリア計画・設計		倉庫の試験施工		秋保エコテリア 施工		実績作り ノウハウ化	
育苗事業等			圃場づくり					育苗に関する市場調査など 苗木販売のアイデア検討			苗木製品アイデア 育苗の体制・スキル 構築	活動の自走化に向けて、 収益構造の構築
震災伝承プログラム				9/3 震災伝承モニター参加		震災伝承プログラムづくり					震災伝承プログラムの パッケージ化 PR	

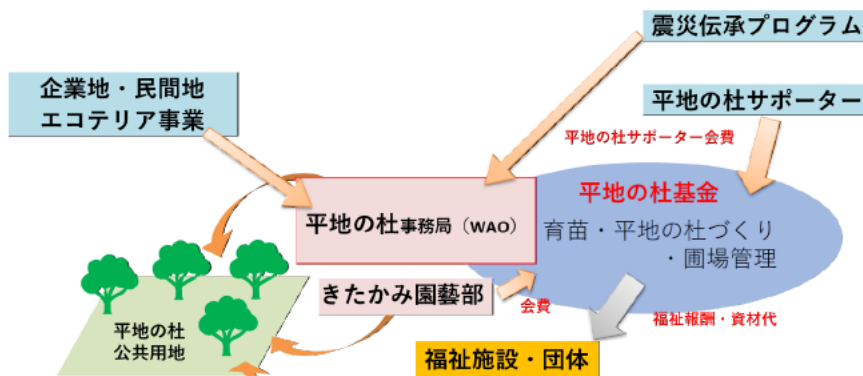


図2 検討内容の見える化に向けたスケジュール作成（上）
検討した事業スキーム案（下）

5. 今年度の取組成果

成果1 広報ツールを作成し平地の杜づくりに共感する仲間づくり（きたかみ園藝部）とサポート企業を獲得

- ▶パンフレットやポップアップによるPRといった各種広報ツールの活用により、きたかみ園藝部員が21名（今年度目標20名）、サポート企業7社（今年度目標3～5社）を達成することができた。
- ▶また、さらに仲間を集めるためにガイドブックや動画を作成することができた。

成果2 杜づくりと収益事業の関連の整理を行い、取組の体系化や事業スキームを構築

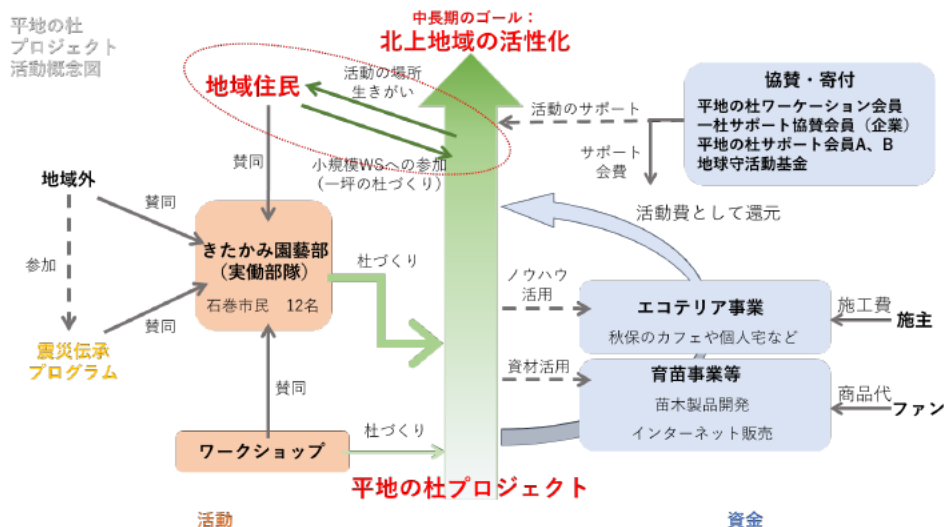
- ▶活動の自走化に向け、杜づくり・収益事業・その他の活動などを体系的に整理し、事業スキームを構築することができた。
- ▶収益事業の柱となるエコテリア事業・育苗事業について、試験施工を実施し、ノウハウを習得するとともに営業展開に向けた情報を整理することができた。

6. 今後の方向性

活動の自走化を実践

- ・広報ツールを活用し、継続的な活動のためにきたかみ園藝部・サポート企業等の仲間づくりの継続。
- ・育苗事業や収益事業の実践及び営業展開を充実し、活動の自走化を図る。

中長期スケジュール・フロー図等



7. 取組主体・関係者の声

これまでの状況や今回の取り組みにおける工夫や苦労など

- ・地域住民は、積極的に意見し、活動をしています。できる事を自ら考え、意欲を持ってチームとして取り組める体制に整って参りました。（ウィーアーワン北上）

ハンズオン支援事業で今回取り組んだ感想など

- ・皆様方からの的確な指摘とアドバイス、サポート体制は少規模団体の私どもにとっては多様な意見が集まる貴重な機会でありました。（ウィーアーワン北上）
- ・伴走型支援の継続により、事業に実際取り組む主体ではわかりえない俯瞰的な視点から見た事業の評価や関係する知識、他での事例など、今後のプロジェクト進行について深堀をすることが出来ました。（石巻市）



ウィーアーワン北上 佐藤代表（左）
石巻市 復興推進課 橋本主任主事（右）